

# あわゆず ふれず

第24号 2011年11月17日発行

伝えよう日本語を  
広げよう徳島から



J T M と く し ま  
日 本 語 ネットワーク

## 1 本のカステラが伝えてくれたこと

### 「おはようございます。今日寺子屋行きますか？」

10月のとある日曜日の朝、1通のメールを受け取った。2009年3月に外国にルーツを持つ子どもたちの教室「にほんご寺子屋」を開設した当初から通ってきている中学生の女の子からだった。

電話をすると、「修学旅行のお土産にカステラを買ってきたから、先生に渡したい。」という声が返ってきた。あいにくその日も翌週の日曜も寺子屋に行けない日だった。「しばらく行けないから、みんなで食べてね。」と言うと、「やだ、先生に買ってきたんだよ。」とめずらしく語気を強めた。

夜、その日の寺子屋に参加したメンバーがカステラを届けてくれた。口にすると、蜂蜜と卵の風味が優しく広がった。旅先からかさばるお土産を持ち帰ってくれたその子の気持ちが嬉しく、これまで食べたどのカステラよりおいしく思った。味わっているうちに、1年半前、その子の母親が「就職のための日本語講座」の受講申込みに来た日のことを思い出した。友人から講座のことを聞いて受講したいと訪ねてきたが、日本語での意思疎通が難しく、申込書の文字もローマ字だった。これでは本人もたいへんだろうし、他の受講生の足を引っ張る恐れもあると躊躇したが、彼女の真剣なまなざしに受講を断ることができなかった。

心配したとおり、当初は授業についていくのもままならず、他の受講生の助けを借りる場面も少なくなかった。しかし終盤になると、講師から上達を認める声が聞かれるようになった。仕事と子育てと日本語の勉強を両立ならぬ三立するのは並大抵でなかったにちがいない。寸暇を惜しんで机に向かう姿が目につく。

彼女はその後、「介護の日本語講座」を修了し、ホームヘルパー2級の資格を取得し、パソコン講座も修了した。そして、徳島市内の介護施設の面接を受け、3カ月間、半日勤務の試用採用となった。

それから1カ月ほど経ったある日、正式採用になったと弾んだ声で電話があった。仕事ぶりが利用者の方々から喜ばれていると上司が言ってくれたそうだ。予定より早い正式採用を驚く一方で、努力を惜しまず笑顔を決めさないう彼女であればこそだと納得した。

「前はいろいろなことが不安でよく泣いていました。今はもっとたいへんだけれど笑顔でいられる、毎日が楽しいって言えます。」「夜もアルバイトをしていたけれど、これからは子どもたちといっしょに寝られる、そのことがいちばん嬉しい。」「報告書を書くのは今もたいへんだけれど、職場の人はみんなやさしいし、仕事も覚えできました。」「利用者さんが私といっしょに食事をしたらおいしいって言ってくれました。」

これまでに彼女が伝えてくれたことばが思い返される。日本語を習得し就労につながる資格やスキルを取得することが、どれだけ日本での生活を楽しく充実したものにするかを物語っている。そして今、彼女は今年の「就職のための日本語講座」や「介護の日本語講座」を受講している人たちの希望となり目標となっている。

彼女がここに至るまでには、家族や友人はもちろんのこと、就労支援講座や職業紹介に関わる機関や相談機関、医療・法律などさまざまな支援機関や日本語支援に関わる数多くの人たちが、その努力を支え見守り受け止めてきた。決してひとりではない、いざというときは支えてくれる人がいる、そんな地域社会とのつながりが感じられてこそ、人は家族を守り社会の役に立ちたいと持てる能力を発揮するのだと、彼女を見ていて教えられる。

そして、その努力を誰よりもそばで見支えてきた愛娘から受け取った1本のカステラには、母親が日本語を習得し仕事を得て笑顔でいることを喜ぶその子の気持ちがぎゅっと詰まっているような気がした。

(J T M と く し ま 日 本 語 ネットワーク 兼松 文子)



文化庁委託

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

## 外国にルーツを持つ子どもたちのための日本語指導者養成セミナー

日時● 7月23日、30日、8月6日、27日

いずれも土曜日 9:00~12:00、13:00~16:00全8回

場所● ヒューマンわくぴあ徳島 (徳島市昭和町)

講師● 関口明子先生、金 早苗先生、内田雅子先生

(公益社団法人国際日本語普及協会)

徳永満枝先生 (徳島市川内北小学校教諭)

長町順子 (JTM「親子にほんご寺子屋」リーダー)

(2011年度第1回定例会)



### プログラム

日付	回	テーマ	講師
7 / 23	1	外国にルーツを持つ子どもたちの日本語支援を考える 1～母語・母文化を見つめて～	関口明子先生
	2	外国にルーツを持つ子どもたちの日本語支援を考える 2～幼い子どもたちを対象に～	〃
7 / 30	3	小学生への具体的支援を考える	金 早苗先生
	4	中学生への具体的支援を考える	〃
8 / 6	5	具体的な教材を考える 1～リライトの考え方を使って	内田雅子先生
	6	具体的な教材を考える 2～DVD「ようこそ! さくら小学校へ」を使って	〃
8 / 27	7	漢字学習について～かんじだいすきシリーズを使って	関口明子先生・金早苗先生
	8	県内公立学校での取り組み事例報告 外国にルーツを持つ子どもたちの教室開設と運営 セミナーのまとめと意見交換会	徳永 満枝先生 長町 順子 関口明子先生・金早苗先生

### 第1回 「外国にルーツを持つ子どもたちの日本語支援を考える 1～母語・母文化を見つめて～」

#### I 外国にルーツを持つ子どもたちを大きく3つに分けて考えてみる。

(1) 来日前に母国で学校に行き、母語で聞く、話すだけではなく、読み書き能力がある子ども

・日本語支援に母語や母文化を生かすことができる。

(2) 幼いときに来日、あるいは日本生まれで母語は聞く、話すは何とかできるが読み書き能力はほとんどない子ども

・核となる言語としての日本語習得と母文化伝承が大切である。

(3) 母国ではほとんど学校に行かないままで、母語を聞いたり話したりできるが、読み書き能力がない子ども

・核となる言語としての日本語学習と母文化保持、自尊感情育成が大切である。

上記(1)(2)(3)の子ども全てに対して周囲の大人がめざすことは「核となる言語を確立する」「自己表現ができる

言語、思考に用いられる言語を持つ」「自文化の確立とゆるがない自己のアイデンティティを持つ」ことである。



#### II 学校の勉強についていける日本語の底力をつける

(1) 日常生活言語の語彙を増やす。

家庭内日常言語が日本語ではなく、文化背景も異なるケースが多いため、その部分の日本語の語彙の習得がなされていない。

それを補うために、読み聞かせでの疑似体験を通して日常生活語彙を増やす。最終的には読書好きにすることで飛躍的に語彙を増やす。

(2) 構文力をつけ、学習言語の語彙を増やす。

書きことばと話しことばの違い、丁寧なことばと友達ことばの違い等の使い分けができるようにする。

そのために説明や発表の機会を作ることで、まとまった文づくりを通して、継続的に構文力をつけていく。

(3) 漢字語彙と教科語彙を関連させて学習することで、教科内容へつなぐ道を作り、学習言語の語彙を増やす。

#### III 日本語支援にとって大切なことは、子どもを見つめるやさしい目線・能力を引き出す客観的な目線・子どもの人間形成のための厳しい目線、そして、子どもたちの周囲の大人の連携である。

## 第2回 「外国にルーツを持つ子どもたちの日本語支援を考える2～幼い子どもたちを対象に～」

I 幼い子どもへの日本語支援とは、学校の授業についていける日本語能力を身につけるための準備段階の支援である。日本で生活し、成長していくので、早い時期からの支援が必要である。具体的な支援の前に ①子どもに関する情報（来日年月、名前、年齢、国籍、母語力、日本語力等）を可能な範囲で得る ②保護者とのコミュニケーションをとる努力をする。保護者の日本語力によって、通訳等を通して幼稚園・保護者双方の意思疎通をはかる必要がある。さらに、子どもの存在を丸ごと受け入れて信頼関係構築のスタートとなるような受入れ態勢を作ることが大切である。

II 効果的に日本語支援を行うにあたっての留意点は、①集中時間を考える ②達成感を持たせ、楽しい、おもしろいという充実感を持たせて、子どもたちが日本語が好きになるように進める。

### III 4技能重ね塗り方式における具体的な日本語指導の方法

「4技能重ね塗り方式」：初めて日本語学習をする子どもたちは新しい言語に触れることで大変緊張し、プレッシャーも強いと思われる。できるだけプレッシャーを取り除き、楽な気持ちで学習できるように考えられたのが「4技能重ね塗り方式」である。これは日本語表現を「聞く・話す・読む・書く」の4技能に分解し、同じ表現を時差で技能別あるいは組み合わせながら数回学習すること、つまり同じ表現を重ね塗りすることで日本語力をつけていく方式である。

- (1) 聞く：日本語の音（リズムやイントネーション）に慣れて、必要な情報を聞き取り、反応できる。
- (2) 話す（聞くとの連携）：わらべうた等を聞いたり歌ったりして、日本語のリズムを身につける。
- (3) 読む：ひらがな、かたかな、数字、漢字、身体名称、名前、幼稚園等の名称
- (4) 書く：上記(3)について、時間的・能力的に余裕があればする。

## 第3回

## 「小学生への具体的支援を考える」

I 来日年齢による言語習得の違い：①小学校低学年での移動：母語はまだ確立していないので、日本語を母語のように覚えることができるが、核となる言語が完成していない。②小学校高学年での移動：母語が確立している子どもとまだ母語能力も十分でない子どもがいる。核となる言語がまだ未完成である。③中学生での移動：母語が確立しているので、日本語支援に母語を生かすことができる。



II 外国とつながりのある子どもの背景を知る：何年生まで母国で勉強してきたか、家庭内での言語は何か、日本語力はどうか、在籍学年までに抜け落ちている部分は何か、等を知る。

III 外国とつながりのある子どもと同年代の日本の子どもたちは学校教育の中で何を学んでいるか知る：①小学校で学ぶ漢字の数（1年：80語、2年：160語、3年・4年：200語ずつ、5年：185語、6年：181語）②国語の内容。例えば4年生の「ごんぎつね」などは日本的な文化背景が分からないと難しい。③算数の内容。何年生で何を学ぶか。例：分数（3年）、面積（4年）、比例と反比例（6年）

IV 日本語の初期指導：①指導者と子どもとの信頼関係を作る。②絵や実物教材を使って解り易く指導する。③教室で使う言葉（10ページを開けてください等）、友達と遊ぶ時の言葉（遊ぼう、入れて）を早い時期に指導する。④実際にその場面を作って会話の練習をする。

### V 教科学習

- (1) なぜ教科学習についていくのが難しいのか：①漢字や知らない語彙が多い ②基本的な知識が少ないので、文章をイメージ化して内容を理解することが難しい。③日本的な知識の欠如により（例：日本の歴史、公民）、今まで学んできたことを使うことができない。
- (2) 教科学習支援：①読み～子どもが生活の中で捉えた言葉に言い換える、絵を見せる、複文を単文にする等 ②書き～教科書の中の文章をそのまま写させる、一問一答式で答えたことを書かせる、日記を書かせる等 ③漢字～『かんじ だいすき』を使って抜けている学年のものを学習する。

VI 楽しい時間を作る：ボール投げなどで体を使う、歌、ゲーム、読み語り、読み聞かせ等

教材：「にほんごを まなぼう」（文部省）、「たのしい がっこう」（東京都教育委員会）

「みえこさんの にほんご」（三重県国際交流財団）、公文のカード、毎日使えるプリント集

## 第4回

## 「中学生への具体的支援を考える」

## I 小学生と中学生の違い

中学生になると自意識が強くなり、友達の目が気になる。日本語が分からなくても分かっているふりをして後で問題が出てくる。先輩、後輩といった日本のな上下関係が出てくる。異文化の中での葛藤がある。高校への進学問題が出てくる。

## II 中学生徒用の教材

①『J S Lカリキュラム中学校編』：日本語の力が十分でない中学生たちが日本語で学習に参加するための力をつけることを目的としたカリキュラム。文部科学省が作成。国語科、社会科等の5教科がある。用語対訳集（ポルトガル語、中国語等7カ国語）がダウンロードできる。②教科書 ③ルビ付きの読み物（岩波少年文庫等）④小学生・中学生新聞 ⑤市販の問題集



## III 教科学習

- (1) 国語：①国語教育と日本語教育の言い方の違いがあるが、国語教育の言い方に気をつける（例：形容詞—い形容詞、五段活用—動詞 I グループ等）②話し言葉と書き言葉の違いを意識させながら指導する。
- (2) 漢字：漢字は国語だけでなく、全ての学習に関係がある。生徒にあった教え方（小学校の漢字を教えるから中学校の漢字を教える。小学校と中学校の漢字を同時に教える等）をする。
- (3) 社会：社会科の学習には、地理、歴史、公民がある。国によって歴史が違い、社会体制や社会的背景が違うので、外国から来た子どもたちが一番難しいと言っている。また、社会科で学ぶ言葉は日常生活の中で使う言葉ではなく、抽象的な言葉が多い。
- (4) 数学：生徒の算数の学力を知り、学習していなかったり覚えていないものは、小学校の学習まで戻る。数学で使われる教科書の言葉はたくさんあり（値を求めなさい、印をつけなさい、まとめてみよう等）これらの言い方の意味が分からないことも多い。
- (5) 英語：生徒が英語が分からないのか、日本語が分からないのかを知って指導する。

## IV 生徒の自信：母国や自分の属している社会に自信を持たせ、成功体験をさせる。

## 第5回

## 「具体的な教材を考える 1～リライトの考え方を使って」

## I この講座で考えるリライト教材とは？

生教材：新聞、ホームページ、歌、レシピ、学年相当教科書などを書き換えることなくそのまま教材として使うもの

リライト教材：学習者の読む負担を軽くし、内容を理解しやすくするために、現時点での日本語力で読めるように書き換えた教材

## II リライト教材を使う目的

知的好奇心を刺激し、「読み」への興味・関心を持たせ、生教材を理解できるような日本語力をつけることを最終目標としている。

## III リライトの具体的な作成方法

具体的な教材として光村図書4年下「アップとルーズで伝える」の一部抜粋を下記の手法でリライトする。

テレビでサッカーの試合を放送しています。今はハーフタイム。もうすぐ後半が始まろうとするところで、画面には会場全体がうつし出されています。・・・観客席はほぼ満員といいでしょう。

- (1) 文型リライト（複雑な文構造を単純なものにする）
  - ・もうすぐ後半が始まろうとするところで、画面には会場全体がうつし出されています。
  - ⇒もうすぐ後半が始まります。画面には会場全体がうつっています。
- (2) ことばリライト（子どもが日常生活の中でよく使うことばに換える）
  - ・ハーフタイム⇒あいだの休み時間
  - ・観客席⇒見る人の席（分からなければ写真を見せる）
- (3) 減量リライト（一つの段落の中で意味が伝わる範囲で重要な部分を抜き出し、全体を短くする）



(4) 分かち書きリライト（文節と文節の間にスペースを入れる）

・テレビで サッカーの 試合を 放送しています。

(5) 漢字リライト（漢字をひらがなにする。あるいは漢字にルビ振りをする）

(6) 文体リライト（常体（～だ・である）から敬体（～です・ます）に書き換える）

実際にリライトする場合は(1)～(6)の方法をすべてするというのではなく、子どもの日本語力に応じて必要な手法をいくつか組み合わせる。

#### 【リライト教材参考資料】

・光元聰江・岡本淑明『外国人児童・生徒を教えるためのリライト教材』ふくろう出版等

## 第6回 「具体的な教材を考える2～DVD『ようこそ！さくら小学校へ～みんな なかまだ～』を使って」

### I 教材の概要

ストーリーが18（①初めてのあいさつ ②学校生活の始まり ③学校生活と仲間たち…）それに付随する表現学習が11、情報が14、クイズが9ある。ストーリーはそれぞれが3分から5分程度、その他の付随部分は2分以内なので、集中力が続かない子どもたちも楽しんで見ることができる。

### II DVD教材を使った学校編入前後の子どもたちへの活動

具体的な活動例

・子どもとの活動

- ①自己紹介をする
- ②自分の名前を書く
- ③教科名を覚える、時間割を読む
- ④学校の施設名を覚える
- ⑤学校の日と時間
- ⑥学校の一年とカレンダー
- ⑦人間関係を作ることばの学習

・その他 親との活動、親子一緒にの活動



## 第7回

## 「漢字学習について～かんじだいすきシリーズを使って」

### I 「かんじ だいすき」の作成経緯

1980年にインドシナ難民の定住促進機関として、(財)アジア福祉教育財団難民事業本部大和定住促進センターが設置され、1998年の閉所まで、2641名のインドシナ難民に対して日本語教育が行われた。ここで、難民の子どもたちの日本語教育に携わってきた。センターの子どもたちは4か月の日本語学習終了後、日本の公立小中学校に編入していったが、そこには膨大な量の漢字が待ち受けていた。当時、外国人児童生徒のための教材は皆無に等しく、漢字の絵カード（表に絵、裏に漢字）と自作のプリントを使用していた。閉所前に、これまで使用していた教材を小冊子「かんじの いっほ」（1997）としてまとめた。閉所後、学習対象者を、日本語を母語としない全ての子どもたちに広げ、『かんじ だいすき(-)』（1999）、さらに続けて『同(六)』（2006）まで作成した。

### II 大和定住促進センターでの漢字指導

難民の子どもたちの漢字指導に当たって、どうすれば子どもたちが負担を感じることなく、楽しく漢字を学習することができるかと考え、以下のような方法をとった。

- (1) 漢字の導入時期を早める：ひらがな終了後、かたかなと同時に導入する。
- (2) 段階的に教える。（第1回報告の4技能重ね塗り方式参照）：まず「読み」、次に「書き」を導入。（例）「いぬ」→意味が分かっていて、ひらがなで読める→「犬」を学習する。
- (3) 漢字絵カード使用：媒介語を使わずに導入でき、視覚的に楽しく学習できる。



### Ⅲ 「かんじ だいすき」の特徴

- (1) 教科学習に焦点を当てた提出漢字  
『かんじ だいすき(一)』は文部省学習指導要領小学校一年生の配当漢字80字、『(二)』は同じく小学校二年生の配当漢字160字、『(三)』、『(四)』はそれぞれ配当漢字200字ずつ、『(五)』では185字を、『(六)』では181字を取り扱っている。
- (2) グループ分け  
1冊の中に数、自然、人間関係、健康、日常生活、学校生活など、3年生からは、教科編として算数、国語、理科、社会、歴史など種類別にグループ分けし、関連のあるものはまとめて覚えられるようにした。
- (3) 1課の構成（各冊は14課～19課からなる）  
①導入 ②漢字の意味の認識 ③書き方、使い方の学習 ④文中での読み練習 ⑤文中での書き練習
- (4) 絵を豊富に取り入れる。
- (5) 音訓は別々に導入
- (6) 漢字語彙として提出（例）「引」引く→ つなを引く→ うんどう会でつな引きをしました。
- (7) 読み書きの練習の文章は初級のものを使用
- (8) クイズやゲーム、物語の掲載：日本の文化的な背景に触れられる民話を取り入れた。
- (9) 既習漢字の確認
- (10) 付属教材 絵カード・漢字カード

### Ⅳ 「かんじだいすき」シリーズ 「社会・理科編」「国語・算数編」の紹介

- (1) 対象学習者と作成意図：日本語指導を必要とする子どもたちが漢字を克服し、学習意欲を出し、自信を持って人生を歩んで欲しいと願って、小学校の総復習として主要4教科の漢字語彙を中心に作成した。対象学習者はこれから日本の中学校で勉強する子どもや現在中学校で勉強している子どもを想定した。
- (2) 学習目標：中学の学習内容についていける基礎力の育成。
- (3) この本の特徴：主要4教科が「社会・理科編」と「国語・算数編」の二冊にまとめられている。社会・理科・算数は多くのイラストと一緒に、楽しく教科語彙が身につくようになっている。国語は学年ごとの配当漢字を使っている。

## 第8回

### 「県内公立学校での取り組み事例報告」

#### I 外国にルーツを持つ子どもたちとの出会い

同じ学年の中にいる場合、担任をしている通常学級の中にいる場合、担任をしていないが校内にいる場合、外国人対応教室にいる場合など、さまざまな出会いがあった。



#### II 外国にルーツを持つ子どもたちと学校生活

校内における協力体制作り、学習支援、生活支援、教材作り、文化交流など、子ども一人ひとりに寄り添って支援した。

#### III 保護者とのコミュニケーション

学校からのおたより、成績や個人懇談、けがや病気・予防注射などについて、時には家庭訪問をして伝えた。

#### IV 今後の課題と抱負

学校は楽しいだけでなく、学力を上げなければいけない。今後も外国にルーツを持つ子どもたちに出会うことがあれば、支援を続けたい。

### 「外国にルーツを持つ子どもたちの教室開設と運営」

JTMとくしま日本語ネットワークの紹介と「親子にほんご寺子屋」教室開設の経緯と運営、今後の課題などについて報告した。

経緯：2007年から毎年夏休みにサマースクールを開催。2009年から月一回、「にほんご寺子屋」を開始する。

2011年6月からは、名称を「親子にほんご寺子屋」と改め、週一回に拡大する。

内容：学習時間（90分）の前半（60分）は個別学習、後半（30分）は全体学習。

全体学習は、日本語学習、日本文化、子どもどうしのコミュニケーションを図るゲームなどを実施。

今後の課題：行政、保護者、支援者との相互の連携。

## 「セミナーのまとめと意見交換会」

## 意見交換会より

最後に6つのグループに分かれて、「今回のセミナーでの気づきや今後支援者としてできること、理想とするところは何であるか」などについて意見交換し、グループごとに発表した。

- ・具体的な方法を使って教えることの大事さ、動作と発音を結びつけるおもしろさを知った。
- ・『かんじ だいすき』を授業に使いたい。
- ・単語カードを使って文を作る、すごろくで言葉を覚える、というゲーム性の大事さを知った。
- ・今回参加して、このような日本語支援の取り組みがあるのを初めて知った。
- ・このセミナーにたくさんの参加者がいたことに感激した。
- ・以前近くに外国人がいたが、あまり気に留めなかった。今後、何かできるのではないかと思う。

## アンケートより

- ・いろいろな教材を手にとりて見ることができてよかった。
- ・先生方が実際に現場で使っている教材を使い方といっしょに惜しみなくご紹介くださったので、子どもたちの支援に対する具体的なイメージがふくらみ、嬉しくなった。
- ・ペアワーク、グループワーク、全体での意見交換など主体的に取り組む作業が多く、具体的に支援の現場に活かせることがたくさん学べた。
- ・リライト教材の作り方、作る意義などを知ることができてよかった。
- ・未経験者にも理解できるように細かいところまで指導してくださり、いい勉強になった。（村松 幸子記）

## 講師プロフィール



**関口 明子（せきぐち あきこ）先生** 公益社団法人国際日本語普及協会 地域日本語教育担当理事

1982年より(財)アジア福祉教育財団難民事業本部大和定住促進センターにおいてインドシナ難民への日本語教育に従事。主任講師としてカリキュラムの作成、教材開発に携わる。地域の日本語ボランティア養成講座、学校関係者への研修講座、技術研修生への日本語教育を対象に、講師及びコーディネータを長年にわたり担当している。横浜国立大学教育人間科学部で平成2007年3月まで14年間「日本語教授法講義」「日本語教授法演習」を担当。また、現在日本の小学校へ通う児童への日本語教育を日本語ボランティアとの連携で実施している。

地域日本語教育活動の充実方策に関する調査研究協力者（文化庁）、小学校教育におけるJSLカリキュラム開発委員（文科省）、空き教室等を利用した親子参加型日本語教室の開設事業企画・評価委員（文化庁）として活動経験を有す。



**金 早苗（きむ さなえ）先生** 公益社団法人国際日本語普及協会所属日本語教師

1990年(社)国際日本語普及協会入会。(財)アジア福祉教育財団難民事業本部大和定住促進センターでインドシナ難民の子どもたちへの日本語教育を閉所まで行った。神奈川県立高等学校で12年間、日本語教育を担当。現在、日本の小・中学校へ通う児童・生徒、インターナショナルスクールの子どもの日本語教育を行っている。(財)海外日系人協会招聘による日系日本語教師養成講座、日本語ボランティア養成講座などの講師を担当。



**内田 雅子（うちだ まさこ）先生** 公益社団法人国際日本語普及協会所属日本語教師

1989年(社)国際日本語普及協会入会。2001年より財団法人言語教育振興財団助成研究により調査報告書執筆担当。現在、地域の「親子日本語教室」にてボランティアの方々とのチームティーチング、公立小・中・高等学校へ通う児童・生徒への取り出し授業を行っている。国土館大学21世紀アジア学部日本語非常勤講師。年少者向け日本語ボランティア養成講座などの講師を担当。



**徳永 満枝（とくなが みつえ）先生** 徳島市川内北小学校教諭

徳島市佐古小学校にて、2000年度から2002年度まで通常学級で、2003年度から2005年度まで外国人対応教室で、イラン、フィリピン、中国、インドネシア、韓国など多数の国の児童の指導にあたる。2003年の文部科学省主催外国人児童生徒等日本語指導講習会、2004年の社団法人国際日本語普及協会（AJALT）主催日本語ボランティア研修、その他徳島県主催の日本語指導ボランティア養成講座にも参加。



**長町 順子（ながまち じゅんこ）** JTMとくしま「親子にほんご寺子屋」リーダー

2005年に中学校教諭を退職後、日本語教師養成講座420時間修了。日本語教育能力検定試験合格。日本語教育に携わる。2007年より2010年まで徳島県委託「夏休み子ども日本語教室」担当。2009年に子どものための日本語教室「にほんご寺子屋」を開設。今年度より「親子にほんご寺子屋（子どもの部）」担当。

文化庁委託 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「親子にほんご寺子屋」子ども教室(毎週日曜日)

2009年の春から、毎月一回、日曜日に、外国にルーツを持つ子どもたちが日本語を勉強する場所として始めたのが「にほんご寺子屋」です。今年の6月からは、文化庁委託の日本語教育事業として、毎週開催しています。名称も、「親子にほんご寺子屋」と改めました。

子どもの声

はじめて来たとき、たくさんの先生がいたのでおどろきました。それから、先生たちは本当にやさしかったです。

今は、本当に楽しいです。その理由は、先生たちが子どもたちのために一生懸命教えてくれるのが、本当にうれしいからです。ほくも、いつか、子どもたちのためになにかしたいです。

先生のみなさん、今まで本当にありがとうございました。これからも、日本語をもっと勉強したいです。先生のみなさん、これからもよろしくお願いします。

(高一男子)

「にほんご寺子屋」に来て、ちょっと漢字がわかった。意味もちょっとわかった。社会の勉強も教えてもらってよく分かった。これからもしっかり勉強します。

いろんな全体学習でゲームや県の名前やフルーツバスケットもして、楽しかった。学習もできてよかったです。

先生もやさしくて、教えるのもよく分かりました。わたしが分からない漢字や意味もちゃんと教えてくれて、ありがとうございました。

(中一女子)

「親子にほんご寺子屋」親教室(毎月1回)

いままでいろいろな教室で、学校からのお便りが読めない、学校との連絡方法がわからないとの声を耳にしてきました。そこで、親教室は、既存の日本語の教科書を教えるのではなく、学校に通う子どもを持つ保護者が、学校とかかわっていく上で知っておくとよいことを中心にカリキュラムを考えました。

学校からのお便りの読み方、学校への連絡の仕方、先生との話し方、知っておくとよい規則、習慣等を親教室の講師担当者と話し合い、何もないところから作りました。授業の準備には時間がかかり大変ですが、学習者の喜ぶ顔を想像しながら、資料作りに励んでいます。

(玉置 房)



保護者の声

今まで、学校へ電話をするとき、先生にどういう順番で話すか、いっしょうけんめい考えて大変でした。今は、先生にいただいた「学校へ電話をするとき」のプリントを必ず見て電話します。とても便利です。

今は、毎月1回ですが、2週間に1回がいいです。ほんとにいろいろな学校のことを教えてくれていいです。ありがとうございました。(小学校2年・幼稚園児の母親)

学校の言葉、生活の言葉をたくさん教えてくれてうれしいです。まだ、子どもは小さいですが、子どもにとって学校は大切です。学校のことを勉強できるのはいいです。もらったプリントは、いろいろな学校のことば、ルール、マナーがたくさんついていて、とてもいいです。大切にします。

(3歳児の母親)



# サマースクール「夏休み子ども日本語教室」

日時：2011年7月26日、27日、29日、8月2日、3日、5日（6日間） 10:30～12:00  
 参加者：小学生13名、中学生4名、高校生3名 計20名 スタッフ：18名

県の委託を受けて「夏休み子ども日本語教室」が今年も開催されました。

今年から「にはんご寺子屋」が毎週開催されていることもあり、「今日からはサマースクール。いつもとは少し違うね。」とやってくる頼もしい顔。「今年も来たよ。サマースクール。」となつかしい顔。そして「私の居場所はあるのかなあ」と不安と期待の新しい顔。

20人のそれぞれの顔が、それぞれの表情が、どんどんと変化していく6日間でした。

個別学習と全体学習を組み合わせ子どもどうしやスタッフとの交流を図りながら日本語の力をつけていきました。

6日間の全体学習の内容です。



## 初日 オリエンテーションと他己紹介ゲーム

来日間もない子どももスタッフの名前をがんばって言えました。ここは安心できる場所だと感じてくれたようです。

## 2日目 借り物ゲーム

「すみません～を貸してください。ありがとうございます。」上手にコミュニケーションが取れるようになってきました。

## 3日目 「いとしの犬 ハチ」の読み聞かせ

日本語のリズムが気持ちを落ち着かせ静かに一生懸命聞いていました。

## 4日目 歌って踊ろう

「マル・マル・モリ・モリ～♪」小さい子どもほど上手に踊る踊る。てかてか ピカピカ つるつる 楽しい日本語がいっぱいありました。

## 5日目 動物さがしゲーム

日本語にも慣れてきました。動物の名前さがしです。教えたり、待ってあげたり、異年齢のグループワークが見事に機能しました。

## 6日目 ハンカチ取りゲーム

最終日はみんなで大きな声を出して「おにぎりオー」。6日間いっしょに勉強したスタッフと1対1でハンカチ取りゲームをして大笑いしました。

最後にアルバムと終了証が手渡されました。「私の夢、好きなこと」が書かれたアルバムにはサマースクールでの楽しい写真が満載されています。

6日間の感想を子どもたちに聞いたらいちばんに「楽しかった～」の声。サマーワークもしっかり仕上げて元気に帰っていきました。

(杜 美智)



第1回特別研修会

## 浅野高弘さんのアメリカ研修帰国報告 チャレンジド in バークレー ～心のバリアフリーはことばを超えて～

6月25日(土)トピアにて会員である浅野高弘さんの「アメリカ研修報告」を聞く研修会を行ないました。浅野さんがアメリカカリフォルニア州バークレーでの1年間の研修で学んだ貴重な経験を80枚ものスライド説明や、その都度、質疑応答を含めながら2時間余り聞きました。

ここでは**チャレンジド**という言葉、浅野さんの今後の活動、目標、感想に絞って紹介します。チャレンジド〔Challenged〕は「障害を持った人」のことを言い、近年アメリカでは「ハンディキャップド」に代わり「チャレンジド」が用いられるようになってきているとのこと。すべての人間は、生まれながらに自分の課題に向き合う力が与えられており、しかもその課題が大きければ大きいほど、向き合う力もたくさん与えられている、という考え方に基づいて作られた新語とのこと。障害をマイナスとしてとらえるのではなく、障害を持つことによりさまざまな事象を自分自身のため、あるいは社会のためにポジティブに生かしていこうという意味合いだそうです。すばらしい言葉だと思います。



浅野さんは次のような力強い決意を聞かせてくれました。一つ目は、今回の研修で学んだことを多くの人に伝え、仲間を増やし、暮らしやすい地域づくりをめざし、まずは徳島を元気にすること。二つ目は海外も含め外に向けての発信をすること。三つ目は一番の夢でもあるパラリンピックのアーチェリーで金メダルを目標に頑張っていくことです。私たちもともに頑張りたいと思います。

(森 清)

## 就職のための日本語講座

5月17日から7月11日まで、徳島市昭和町のヒューマンわーくびあ徳島において、徳島県労働者福祉協議会主催の「就職のための日本語講座」が開講され、JTMとくしまは120時間の日本語指導を担当しました。3年目の取り組みとなる今年度は、フィリピン、マレーシア、中国出身の7名が受講しました。受講生は大変勉強熱心でした。多くの宿題を毎回きちんとこなし、授業中分からないことがあったらすぐに聞きメモをとっていました。講座終了後も夏休みの宿題をし、労福協に提出に来ていました。このような彼女たちの「日本語を習得したい」という強い気持ちと努力する姿を見て、大変勇気づけられました。



講座の修了式の日、忙しい中、受講生が謝恩会を開いて、自分の国の料理を作り持ってきてくれました。おいしい料理を食べながら、いろいろな話をすることができました。この講座を通して、出身国が違っていても、母語が違っていても、真剣に心から話しかければ、お互いが理解しあえることを学びました。

(西田 知子)

## 「とくしま県民活動プラザ開設10年記念フォーラム」に参加して

日ごろJTMもお世話になっている「とくしま県民活動プラザ」の開設10年を記念して、フォーラム「協働は人をつなぐ 地域をつなぐ 未来へつなぐ」が開催され、JTMもパネルディスカッションおよび分科会に参加しました。

8月27日（土）あわぎんホール 15：30～16：50

### 「社会貢献活動の活性化について」パネルディスカッション

「協働」をテーマに、子どもたちへの支援の広がりや今後の連携の必要性、また「就職のための日本語講座」「介護のための日本語講座」などを通じて、外国の方自身が社会貢献できる機会を提供していくことの必要性などについて述べました。  
(参加者 辻 暁子)



8月28日（日）アスティとくしま 10：00～16：00

### 第3分科会「新しい公共の担い手を目指して～市民活動団体に求められる自立とは」事例報告

私たちに、現場と行政をつなぐ仕組みづくりについて、あらゆる提言をしていくという明確な役割があります。言うべきことを行政に受け入れてもらうためには、私たち自身も活動分野において専門性を高めることが大切で、それが、ともに仕組みづくりに取り組むことにつながるということなどについて述べました。  
(参加者 兼松 文子)



NPO法人として第一線で活躍されているそうそうたる団体と一緒に、今回このような参加のお誘いをいただいたのは、日ごろの活動が評価された証だと思います。今後もこの評価に恥じないよう、地道に着実に活動を続けていきたいと思えます。  
(辻 暁子)

## にほんご、 三二知識

会員の山本さんが、同じ会社に勤めているAさんのことを会社の他の人に話しています。Aさんは山本さんの上司でしょうか、それとも、違うのでしょうか。右の山本さんの言葉を読んで、考えてみてください。



(山本さん)

きのう、Aさんのところに参りました。



答えは「Aさんは、山本さんの上司じゃありません。」  
どうしてでしょうか。

それは山本さんの言った「…参りました。」という言葉です。

「参る」は敬語でへりくだって相手を立てる謙譲語ですが、話し相手に対する敬語なのです。おそらく、山本さんは上司に報告しているのでしょう。

では、Aさんが上司だった場合、どのように言ったらいいのでしょうか。「きのう、Aさんのところに伺いました。」と云えばいいのです。「伺いました」もやはり、謙譲語ですが、〈向かう先/Aさん〉に対する敬語だからです。

違いがよく分からない方は、「Aさん」の代わりに「弟」を入れてみてください。「きのう、弟のところに参りました」はおかしくないのに、「きのう、弟のところに伺いました??」は、おかしいですね。

平成19年に文化審議会から出された「敬語の指針」には、敬語を「尊敬語（いらっしゃる）・謙譲語Ⅰ（伺う）・謙譲語Ⅱ（参る）・丁寧語（～ます・です）・美化語（お/ご～）」の5種類に分け、現代の敬語の用法や動きを的確に理解するうえで、この分類は必要だとしています。

敬語はコミュニケーションを円滑に行い、良い人間関係を作るのに欠かせないものです。正しく使えるようになりたいものです。

\*参考文献 文化審議会答申「敬語の指針」  
(玉置 房)

# INFORMATION

## 活動紹介

### ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
  - \* 毎月第2土曜日13:30~15:00
  - 〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇教師グループ研修会
  - \* 毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会

### 日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
  - \* 毎週月曜日10:30~12:00
  - 徳島県国際交流プラザ

### 「親子にほんご寺子屋」子ども教室

- \* 毎週日曜日13:30~15:00
- 徳島県国際交流プラザ

### 「親子にほんご寺子屋」親教室

- \* 毎月1回
- 徳島県国際交流プラザ
- 文化庁委託事業

### 就職のための日本語講座

- \* 5月17日(火)~7月11日(月)

### 介護のための日本語講座

- \* 9月5日(月)~11月2日(火)
- ヒューマンわーくびあ徳島
- 主催 (社)徳島県労働者福祉協議会

### 徳島県アパレル縫製工業組合日本語集合研修

- \* 9月22日(木)~10月18日(火)

## 日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
- 初級会話から日本語能力試験対策レッスンなどニーズにあった学習プランで教えます。

- ◇外国人技能実習生の日本語集合研修

- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール [jtmtoku-lesson@mbk.nifty.com](mailto:jtmtoku-lesson@mbk.nifty.com) まで。

- ◆会員数 (2011年10月末現在) 正会員55名 協力会員2名 協力団体2
- ◆入会随時受付中!
- 正会員...会の活動に参加し、ともに運営を行います。
- 協力会員・団体...会の活動を支援する個人または団体

## JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

# こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

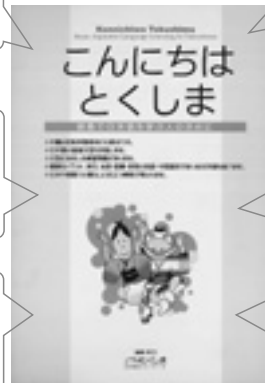
日本語の基礎文型を学習します。

文型に対応した練習問題があります。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。

会話と語彙、表現の英語・中国語訳があり、自習学習を助けます。

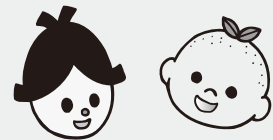


- ご購入、お問い合わせは…
- JTMとくしま事務局 または
- ✿ 紀伊国屋(そごう徳島店8F)
- ✿ 宮脇書店(クレメントプラザ4F)

## 徳島県「帰国・外国人児童生徒支援事業」

徳島県教育委員会からの要請により学校に日本語指導講師を派遣しています。

[http://www.tokushima-ec.ed.jp/curriculum/kokusai\\_kyoiku/kokusai\\_top.html](http://www.tokushima-ec.ed.jp/curriculum/kokusai_kyoiku/kokusai_top.html)  
(徳島県立総合教育センターホームページ)



## あ と が き

久しぶりの「あわゆずぶれす」です。

今回は夏に開かれた定例会の内容をしっかりお伝えしようということで、ページ数が増え、中身がもっと濃くなっています。

ぜひ、ご覧ください。

(加村 匡子)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク  
 発行責任者/兼松 文子  
 編集責任者/山満十糸子  
 編集スタッフ/加村 匡子・村松 幸子・辻 暁子  
 安山 政子・長町 順子・玉置 房  
 森 清・竹治 博・杜 美智  
 印刷/徳島県教育印刷株

### ■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1  
 わーくびあ徳島2階 (社)徳島県労働者福祉協議会内  
 TEL 088-625-8387 FAX 625-5113  
 E-mail [jtmtoku@nifty.com](mailto:jtmtoku@nifty.com)  
 URL <http://homepage2.nifty.com/jtmtoku/>